

県立博物館 (秋田市)

展示・収蔵品より

# 美を知る

267

①尾去沢鉱山(鹿角市) 塊状銅鉱石

大部分が黄銅鉱からなり、礫状の構造を持つ。40 $\mu$ を越える非常に大きな鉱石であると同時に、一般的な銅の含有量が0.5~1%ほどであるのに対し、こちらは10%を超える高品位鉱である。表面の状態が良く、離れた場所から見れば金塊のように光り輝き、近くから見れば、蔀絵のような模様を楽しむことができる。

②尾去沢鉱山 黄鉄鉱

黄鉄鉱は鉱山で最もよく見られる鉱物の一つで、強い金属光沢やシャープな結晶が魅力的だ。この標本は40 $\mu$ 近い大きなもので、小ぶりながら形と照りの良い黄鉄鉱の結晶や小さな水晶の結晶が一面をびっしりと覆っている。光を当てると強く乱反射し、天然のミラーボールと言える。

③釈迦内鉱山(大館市) 第4鉱体 黄銅鉱・黄鉄鉱

黒鉄鉱床である釈迦内鉱山で産した鉱石だ。黒鉄と聞こえるが、こちらは表面に無数の黄銅鉱と黄鉄鉱が見られる。結晶の表面の状態が非常に良く、鏡のように光を反射する。母岩は黒鉄で、閃亜鉛鉱や方鉛鉱の細粒な結晶

が黄銅鉱と対照的に黒く輝いている。

④宮田又鉱山(大仙市) 方解石

方解石は炭酸カルシウムからなる無色~白色の鉱物で、様々な結晶形を示す。コンクリートの原料である石灰岩の主成分でもある。

この標本は黄銅鉱―黄鉄鉱―緑泥石からなる母岩を覆うように成長した方解石の結晶で、10 $\mu$ 近い犬牙状の巨晶を伴う。宮田又鉱山は荒川鉱山の支山の一つで、黄銅鉱の結晶や方解石の犬牙状結晶がしばしば標本として残るが、本標本のような大型の結晶はまれである。

⑤尾太鉱山 (青森県西目屋村) 菱マンガン鉱

尾太鉱山は、さまざまな鉱

物の非常に良い結晶を産したことで有名である。その中でも菱マンガン鉱は非常に有名で、尾太鉱山を代表する鉱物の一つでもある。色は桃色から赤みを帯びた桃色。鉱石の表面を覆うようにモコモコと成長し、かわいらしい見た目である。

今回紹介した標本はいずれも、非常に大きく迫力と見ごたえがある。このような標本は、鉱山作業員が掘り出し自宅に飾っていたものが多い。しかしながら、県内の鉱山の多くは閉山し、元鉱山作業員たちもほとんど亡くなった。標本も廃棄されてしまうことが少なくない。そのため、このような大型の標本は非常に貴重なものとなっている。

掲載の標本は、全国各地で鉱石や鉱物標本の買い取りを行っているコムロミネラルズ(東京)の小室吉郎社長からの寄贈品で、近く当館自然展示室に展示する。ぜひご覧になり、鉱石の魅力を感じてほしい。

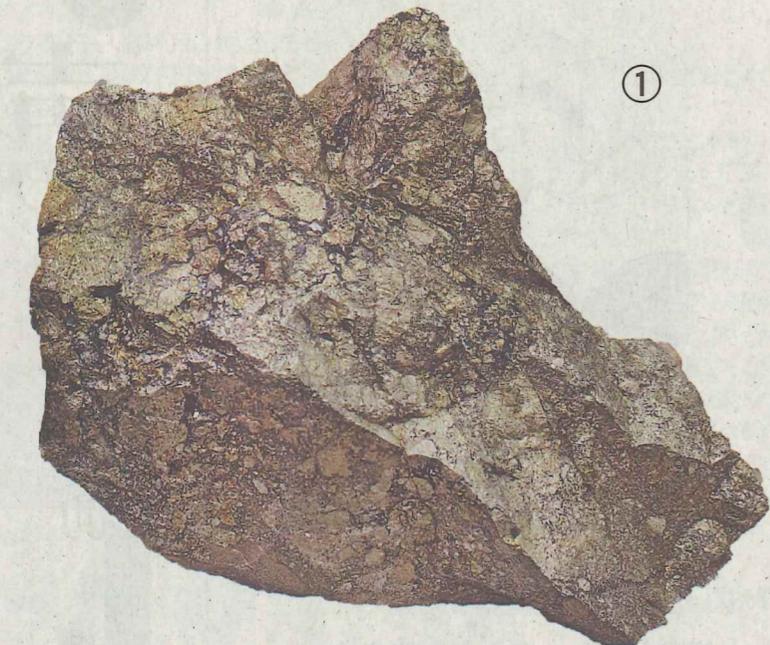
(県立博物館学芸主事・鈴木照洋)

# 迫力ある良質な結晶

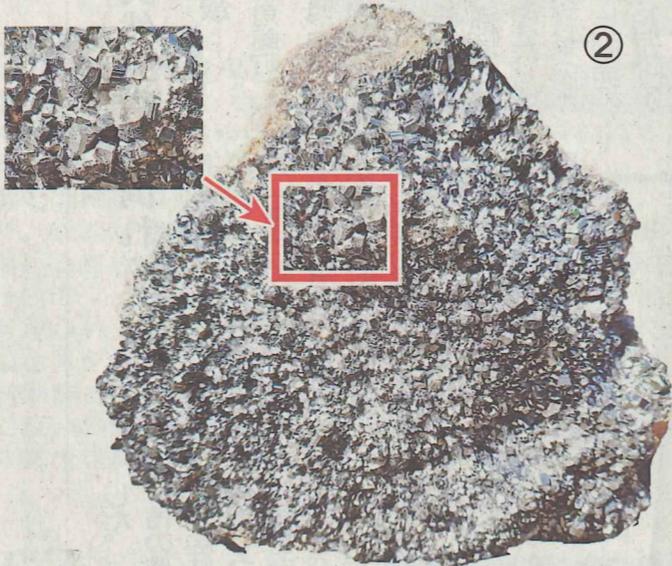
## 寄贈された鉱石の数々

昨年末から今年4月7日まで開催された当館企画展「大こうぶつ展」では、鉱物や鉱石を展示し、たくさんの方の来館者を迎えることができた。本展の前後で国内、特に県内の鉱山で産した鉱石の寄贈を受けたことから、今回、これらの標本の中から5点を紹介する。

尾去沢鉱山は閉山まで30万円を超える銅を産した。現在の価値で4500億円にもなる。日本でも5本の指に入る大銅山で、その面影を残した迫力のある鉱石である。



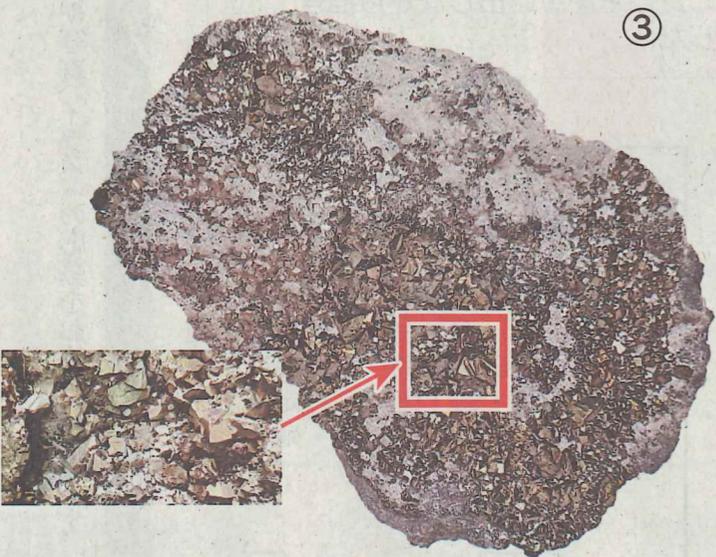
①



②



③



④



⑤

10cm

- ①尾去沢鉱山産の塊状銅鉱石
- ②尾去沢鉱山産の黄鉄鉱
- ③釈迦内鉱山第4鉱体産の黄銅鉱・黄鉄鉱
- ④宮田又鉱山産の方解石
- ⑤尾太鉱山産の菱マンガン鉱